

柱 3-1-(2) 最新技術を活用した維持管理業務等の効率化

2 年度目標の達成状況

目標	2 年度実績	2 年度目標 の評価	3 年度目標 (設定・変更等)
2 年度 ドローンによる防潮堤点検業務の本格運用を開始し、目標設定に向けた検証を行う。 ※ 3 年度以降の目標は、2 年度の検証を踏まえて設定	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省航空局の無人航空機の飛行に係る許可・承認を受け、防潮堤点検業務を開始するとともに、目標設定に向けた検証を行い、運用範囲を設定した。 	達成	運用範囲の拡大 (5 k m から 15 k m) (理由) 3 年度目標が未設定であったため。

2 年度取組の実施状況

2 年度の取組内容	2 年度の主な 取組実績	課題	3 年度の取組内容 (課題に対する対応)
① ドローン活用による防潮堤の維持管理等の効率化 <ul style="list-style-type: none"> 国土交通省航空局の無人航空機の飛行に係る許可・承認を得る。 防潮堤点検業務の運用を開始する。 目標設定に向けた検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省航空局の無人航空機の飛行に係る許可・承認を得た。 運用範囲について、運用時の部外者立入想定や危険個所の把握などの事前確認を行い、運用を開始した。 (運用範囲 5 k m) 目標設定に向けた検証を行い、防潮堤総延長 60 k m のうちドローンが有効に活動できる範囲 (30 k m) を選定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ドローンの運用の際には、第三者へ危害がないよう十分な安全対策を行う必要があるため、運用コースの事前確認や運用時の安全対策が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ドローンが有効に活動できる範囲 (30 k m) のうち、運用が比較的早期に出来る単純な地形 10 k m を選定する。(上期) 新たに選定した 10 k m の運用を開始する。(下期) 2 年度に運用を開始した 5 k m の安定的運用を行う。(通年)

柱 3-1-(2) 最新技術を活用した維持管理業務等の効率化

3 年度目標の達成状況

目標	3 年度実績	3 年度目標 の評価	4 年度以降目標 (設定・変更等)
<p>2 年度 ドローンによる防潮堤点検の業務の本格運用を開始し、目標設定に向けた検証を行う。</p> <p>3 年度 運用範囲の拡大 (5 km から 15km)</p>	15km の範囲で運用	達成	<p>—</p> <p>(理由)</p> <p>これまでの進捗状況を踏まえ、所属により自律的な改善と検証に取り組んでいく段階であり、令和 4 年度以降は、所属マネジメントのもと運用方法の改善及びドローンの運用範囲の拡大を図っていくため。</p>

3 年度取組の実施状況

3 年度の取組内容	3 年度の主な 取組実績	課題	4 年度の取組内容 (課題に対する対応)
<p>① ドローン活用による防潮堤の維持管理等の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローンが有効に活動できる範囲 (30km) のうち、運用が比較的早期にできる単純な地形 10km を選定する。 新たに選定した 10km の運用を開始する。 2 年度に運用を開始した 5 km の安定的運用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2 年度実績の検証を踏まえ、ドローンの活動範囲として設定した 30km の範囲のうち、15km (2 年度運用開始の 5 km 及びに 3 年度に運用した 10km) において、運用を開始した。 	—	—